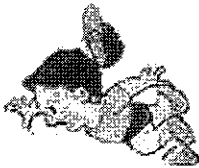


3歳児健診用

子どもの事故はちょっとした気配りで防げます。事故を防ぐためのポイントをまとめてみました。

1. 子どもが外遊びをするとき、つまずきやすいものや段差がないか注意しましょう。

子どもは体のわりに頭が大きく重心が高いため、バランスを崩してよく転倒します。走っていて足がもつれたり、スクーター、三輪車に乗っていて石や段差で転倒したりします。またまた上手に手を出すことができません。舗面からアスファルトやコンクリートに転倒すると重傷な事故になる場合があります。



つまずきそうな段差がないか確認して遊ばせましょう。足のサイズにあった靴をはいて遊ばせましょう。

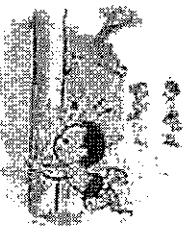
2. 浴室の床やタイルは滑りにくいですか。

浴室のタイルは水や石鹸で滑りやすく、転倒すると桶や浴槽、ドアのサンで打撲したり切傷してしまいます。浴槽の床やタイルは滑り止めのマットをひくなどして、滑らないようにしておきましょう。



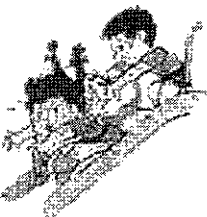
3. いつも子どものいる位を確保しましょう。

ジャンプしたり、走ったり、三輪車をこいだり、お母さんがおしゃべりに夢中になっているわずかなすきに子どもは思いつかないところに移動します。ソファからジャンプして飛び降りてテーブルにぶつかったり、走って遊んでいてドアや柱にあたったり、危険な遊び方を始めたらきちんと指導しましょう。外遊びをするときは、子どもは思いつかないところに移動するので、注意しましょう。子どもの行動をよく観察して、安全に遊べる環境を作りましょう。



4. すべり台やブランコの安全な乗りかたを教えましょう。

すべり台で前を滑っている友達を後ろから押したり、ブランコに立ち乗りをしていて転落し、戻ってきたブランコにあたり、子どもは決まった遊び方では物足りず無理なことをしようとしています。安全に作られている遊具でも遊び方を誤れば事故の引き金となり、思わぬけがを負ってしまいます。遊具の安全な遊び方を教えましょう。遊びのルールを決めて守らせるようにしましょう。



5. ベランダや窓の側に遊び台になるものは置かない。

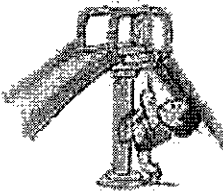
ベランダや窓の向こう側の景色に子どもは興味があります。子どもの好奇心をくすぐる場所であるのと合わせて、転落したときの被害の大きさも忘れてはなりません。お母さんがベランダから下に見えると、身を乗り出し、高い壁にあるベランダからの転落事故は死亡や重傷などの生命にかかわる事故につながります。



ベランダには新聞の架、ビール瓶のケース、大きなクーラーボックス、高さのある植木鉢など、踏み台になるものは置かないようにしましょう。子どもがのぞきこめる窓には安全網つけ、ベッドやソファ、椅子やテーブルなど子どもの這い上がれる物は窓のそばには置かないようにしましょう。

6. おもちゃで遊んでいるとき、危険なことをしていないか確認しましょう。

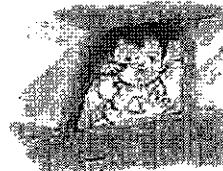
おもちゃを持って遊具の高いところから飛び降りたり、砂場遊びのシャベルで打ち合ったり、縄跳びや紐をすべり台やジャングルジムにかけて遊んだり、子どもは大人が思いつかないような遊びを見つけます。子どもの遊んでいるおもちゃや遊具環境、遊び方について大人が常に確認する必要があります。子どものおもちゃの大部分は安全に設計されていますが、子どもは本来の遊び方で遊ぶとは限らないので常におもちゃの安全を点検しておきましょう。



子どもの年齢や能力にあった遊具を選び、遊び方のルールを身につけさせましょう。

7. 車のドアを閉めるとき、子どもの指をはさまないか確認をしましょう。

車のドアを閉めるとき、子どもの手があるのに気づかず閉めてしまうと、車のドアは重いので軟らかい子どもの指は重傷な傷を負ってしまいます。車のドアは子どもが開けられないようにドアロックしておき、パワーウィンドーを開めるときは窓から顔や手が出ていないか確認してから行いましょう。



また、自転車に乗せていていて後輪に足をはさむ事故も起こっていますので、子どもを自転車と一緒に乗せるときは、足が巻き込まれないように、ドレスガードのついたものを選びましょう。

8. 自動車に乗るときは必ずチャイルドシートを使用しましょう。

子どもはなかなかじっと座っていません。チャイルドシートに懐かなくて座らないと、使用しないで車に乗せてしまいがちになりますが、スピードを出していないでも衝突による力は予想以上に大きく、子どもを死にさせたりひどく傷つけてしまいます。走行中子どもに車内の装置を触らせないようにするためにチャイルドシートに座らせ、シートベルトをしっかりと締めましょう。



9. 子どもにも交通ルールを教えていきましょう。

信号の変わり際に横断歩道を渡って車と接触したり、ボールを遊んで道路に飛び出しひかれてしまったり。子どもは遊びに夢中になってしまうと、周囲に注意を払うことがなかなかうまくできません。

道路を歩くときは手をつなぎ、大人は車道側を歩くようにしましょう。

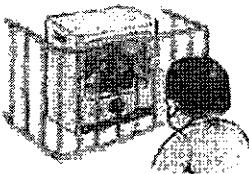
三輪車は車が通らないところで乗ることや、道路に飛び出しをしないなど、交通ルールを教えていきましょう。



10. ストープやヒーターは子どもが触れないようにする。

冬は暖房器具によるやけどが多くなります。ヒーターの噴出し口に指をつけたり、転んでストーブにぶれてしまったりします。子どもの皮膚は大変強く、ほんの少しの熱でも重症なやけどを負う危険があります。

熱源が直接触れないように、ガードをして使用しましょう。ストーブの上にやかんは置かないようにしましょう。



11. 熱いお茶、味噌汁、カップラーメンなど子どもが熱い物に触れないようにしましょう。

台所は子どもにとって危険な場所のひとつです。ちょっと目を離したすきにガス台から下ろしたばかりのやかんや熱い鍋に触ってしまったら、足元にいる子どもに熱いスープや油をかけてひどいやけどを負わせてしまったり、テーブルの上のカップラーメンをひっくり返してしまったり事故があります。

熱い食べ物や飲み物はテーブルの中央に置きましょう。

アイロンは使用時だけでなく、温度を冷ますときも手の届かないところに置いて冷ましてみましょう。



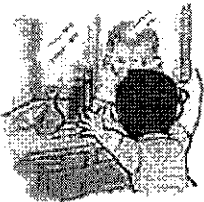
12. 医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かない所に置きましょう。

子どもは大人のまねをしたがり、引き出しに入っている薬も取り出して誤飲してしまいます。好奇心が強く、トイレ用洗剤、カビ取り剤、漂白剤などを無造作に置いておくと誤飲する危険があります。誤飲の場合、吐かせていいものと悪いものがあるので、まず何を飲み込んだのか落ち着いて判断することが必要です。

医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かないところに置きましょう。

手が届く引き出しは開けることができないようにロックをしておきましょう。

薬は不要になったら捨て、薬入れにお菓子の空き缶などは使用しない。



13. 子どもが鼻や耳に小物を入れて遊ばせない。

子どもはビーズやプラスチックの玉、小さなブロックやお菓子などを面白半分で鼻や耳に詰めて遊ぶことがあります。異物が詰まって取れなくなり、思わぬ事故に至ることもあるので注意が必要です。特に鼻から入ったものは長時間そのままにしておくと鼻の中の粘膜に炎症を引き起こします。

鼻や耳の中に物を入れてはいけないことを教えましょう。



14. あめ、お餅などを食べる時、喉に詰まらせないように注意する。

あめを喉に詰まらせたり、食べ物が大きすぎて飲み込めず、喉につかえることがあります。子どもの喉はまだ未発達なので、蒸籠に物が入りやすく、落ち置いて食べないと窒息事故は起こっています。

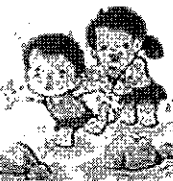
食べ物は硬さ大きさを、口の中に入れる量を考えて食べさせましょう。



15. 子どもだけで川や池に遊びに行かせない。

外で友達同士で遊ぶことが多くなるので、住まいの近くの池や川、用水路、浄化槽や防火槽など子どもが落ちる危険がある場所がないか確認しておきましょう。浅瀬でも流れがある所では、バランスを崩して転ぶと簡単に立ち上がられません。

川や池、用水路などに一人で近づいては危険なことを教えましょう。



16. 水遊びをするときは必ず大人が付き添いましょう。

水遊びは子どもを解放的な気分させる遊びですが、子どもはわずかな水深でも溺れてしまいます。浅瀬だから、葦のビニールプールだからと安心して目を放すと大変危険です。

水遊びをするときは必ず大人が付き添いましょう。ビニールプールは遊んだ後は水を流し、伏せておきましょう。



17. かみそり、包丁、はさみなどの刃物は使用したら必ず片付け、取り出せないように引き出しにはロックをしておく。

まな板の上に置いてあった包丁を取ろうとして足の上に落ちてしまったり、洗面台のかみそりを握ってしまったら、子どもは大人が使っている物に興味を持ち、真似をして自分でも使ってしまう。

まだまだ大人が見ていない時に刃物を使用するのは危険です。刃物を使用したらすぐ収納場所に片付ける習慣をつけておきましょう。

